

共に歩んでいく思いやりのまち 泉南市認知症条例

～プロセス編～



福祉保険部 長寿社会推進課



1. 条例検討の背景

2. 条例検討のプロセス

3. 集まった声の紹介



1. 条例検討の背景

国の認知症施策のこれまで

2000年 介護保険法施行

- ・認知症に特化したサービスとして、認知症グループホームを法定。
- ・介護保険の要介護(要支援)認定者数は、
制度開始当初218万人→2018年4月末644万人と3倍に増加。
- ・要介護となった原因の第1位は認知症。

2004年 「痴呆」→「認知症」へ用語を変更。

2005年 「認知症サポーター」の養成開始。

2012年 オレンジプランを策定。

2015年 新オレンジプランを策定。

2017年 介護保険法の改正。

※新オレンジプランの基本的な考え方として、介護保険法上、以下の記載が新たに盛り込まれた。

- ・認知症に関する知識の普及・啓発
- ・心身の特性に応じたリハビリテーション、介護者支援等の施策の総合的な推進
- ・認知症の人及びその家族の意向の尊重 等

2018年 認知症施策推進関係閣僚会議が設置

2019年 認知症施策推進大綱を関係閣僚会議にて決定。

2020年 介護保険法の改正。

- ・国・地方公共団体の努力義務を追加(介護保険法第5条の2)
- ・「認知症」の規定について、最新の医学の診断基準に則し、また、今後の変化に柔軟に対応できる規定に見直す。

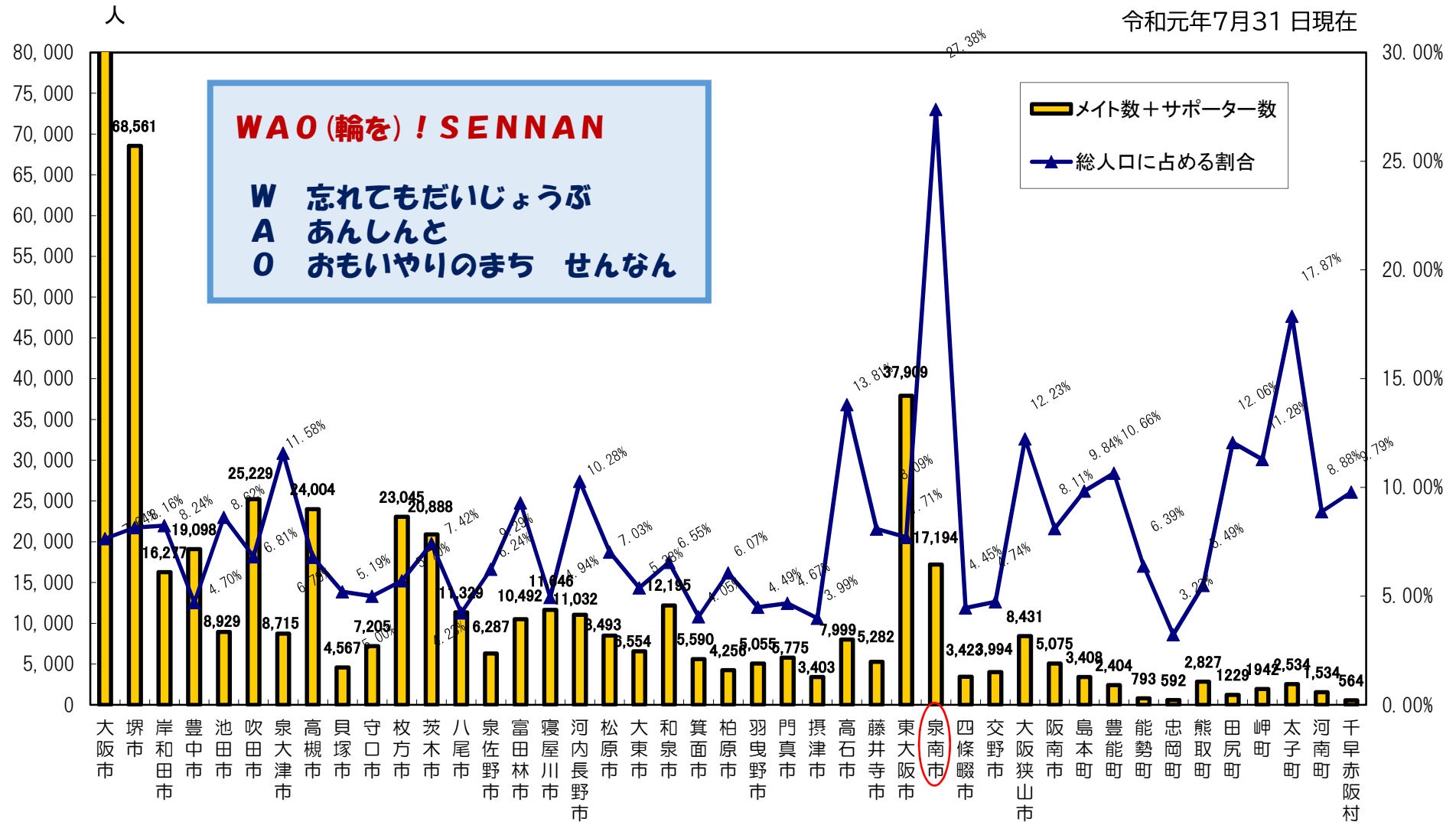
2023年 **共生社会の実現を推進するための認知症基本法** 成立

2024年 **認知症施策推進基本計画** 閣議決定

泉南市のこれまでの取り組み

キャラバンメイト・認知症サポーター数と総人口に占める割合

令和元年7月31 日現在



泉南市の現状

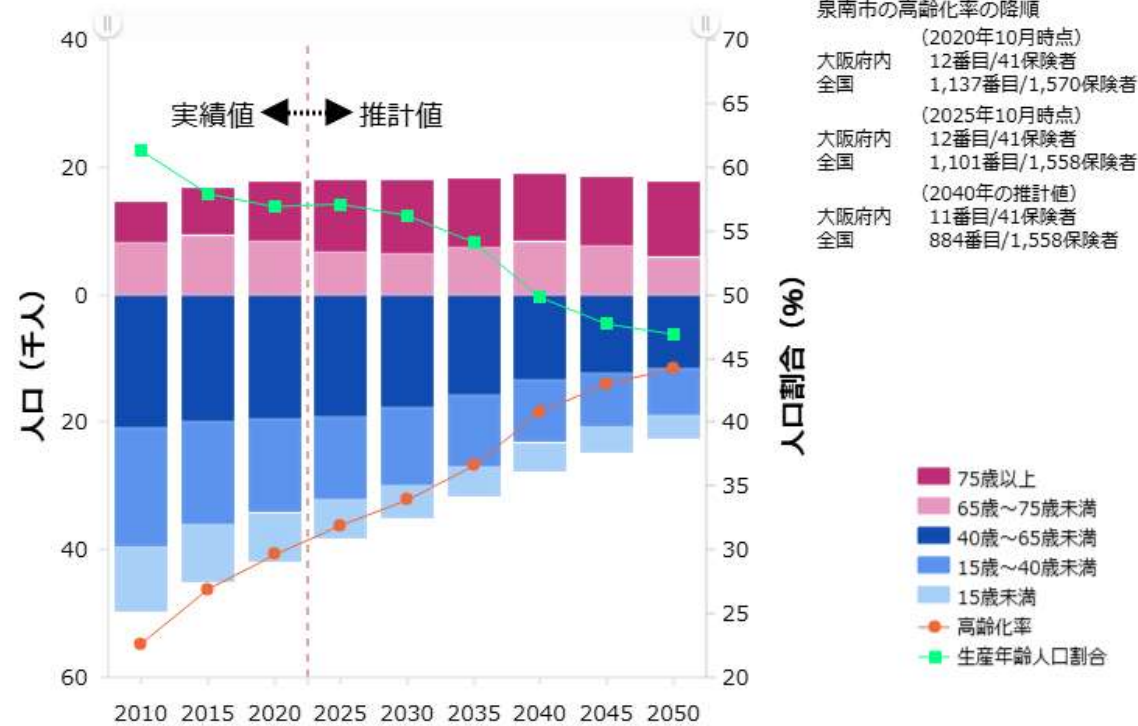
人口 57,650人(2025年8月末現在)

うち65歳以上 17,343人

高齢化率 30.08%



泉南市の人口の推移



(出典) 2000年～2020年まで：総務省「国勢調査」
2025年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」

これから
超高齢化がさらに進む

- ・認知症の人がさらに増加
独居の認知症の人が増加
- ・地域社会全体の活力が減衰
- ・人手不足がより顕著に

これまでを見直し、
認知症施策のあり方を刷新



2. 条例検討のプロセス

条例の検討過程

令和5年度から検討開始 → 令和7年4月1日施行

R5	R6	R7
<ul style="list-style-type: none"> ●条例検討に向けたアクションミーティング ●第1回検討委員会 ●WAOネット会議 ●キャラバンメイトフォローアップ研修にてアクションミーティング ●認知症サポーターステップアップ講座にてアクションミーティング ●条例だより第1号発行 	<ul style="list-style-type: none"> ●グループホーム、小規模多機能型居宅介護支援事業所での声集め ●施設職員向け勉強会 ●市職員向け勉強会 ●市職員向け意見照会 ●第2回検討委員会 ●地域でのアクションミーティング開催 ●医療機関、介護事業所での「声カード」による声集め ●小中学校での声集め ●民生委員向けアクションミーティング ●条例だより第2号発行 	<ul style="list-style-type: none"> ●第3回検討委員会 ●パブリックコメント ●商工会、校園長会意見照会 ●条例だより第3号発行 ●第4回検討委員会 ●条例だより第4号発行 ●条例案作成 ●逐条解説作成 ●議会承認 ●施行

「(仮称)泉南市認知症条例」制定に係る検討委員会

構成メンバー

- ・ 市内在住・在勤の認知症の本人
- ・ 市内在住・在勤の認知症の本人の家族
- ・ 病院相談員
- ・ ケアマネジャー連絡会
- ・ 介護サービス事業所連絡会
- ・ グループホーム
- ・ 社会福祉協議会
- ・ コミュニティソーシャルワーカー
- ・ 地域包括支援センター
- ・ 行政(障害福祉課、政策推進課、子ども政策課)
- ・ 学識経験者



内容

第1回	「地域とのつながりと希望」について、各委員からメッセージ
第2回	「声集め」の報告 「大切にしたいキーワード」を持ち寄る
第3回	素案の共有 委員からタイトル案の提案、意見交換
第4回	「声集め」、パブリックコメントの報告 条例案、タイトル案について細かな議論



「条例だより」
を作成

市ウェブサイトなどで
検討過程を発信
第1号～第4号を公開中
(詳細はこちら↓)



アクションミーティング

検討委員会の中で、本人、支援者、地域の方等の声を集めて条例を作ることとなった。

実施先

- 住民の通いの場
(WAO体操2、MCI予防教室、サロン等)
- 認知症カフェ
- 民生委員児童委員
- 認知症キャラバン・メイト
- WAOパートナー(住民ボランティア)
- WAOネット会議
- 条例検討委員会構成メンバー及び周辺関係者



テーマ:「語り合おう、一緒に “こんな町にしたいねん”」

- ①認知症になってもなくても、共に支え合うために必要なことは？
- ②あなたができること(やってみたいこと)は？



アクションミーティング参加者
合計 約230人(延べ数)

声カードの取り組み

認知症のあるご本人の声を
もっと集めるには？



「声カード」を作成

協力依頼先

- グループホーム
- 小規模多機能型居宅介護
- ケアマネジャー
- 特別養護老人ホーム
- デイサービス
- 病院
- 診療所 他

本人の声カード

本人の声カード

事業者の声カード

事業者の声カード

家族の声カード

家族の声カード

*今から必要な支援はなんですか？
*今まで様々な専門職やボランティアの関わりを受けてみて感じることや、診断当時に不安だったことはなんですか？

【ご本人への質問】

- ①あなたがこれからやってみたいこと(希望)は何ですか？
- ②あなたが周囲の人に望むことは何ですか？

【家族の方への質問】

- ①今から必要な支援は何ですか？
- ②今まで専門職やボランティアの関わりを受けてみて感じることや、診断当時に不安だったことは何ですか？

【事業者の方への質問】

- ①大切にしているケアとは？
- ②認知症のある方が安心して暮らすためには何が必要だと思いますか？



3.集まった声の紹介

検討委員会①

普段の暮らしの中で、認知症カフェなど相談できる場所の情報が入ってこない。（家族）

最初に診断を受けた時、生活や仕事、家のローン、病院はどうしたら良いか等、本当に迷った。（家族）

病院で相談を受けていると、昨日今日ではなく年単位で異変を感じて相談に来た人が多い。困る前から相談先を知っておけるような何かがあれば良い。（病院関係者）

認知症を隠すのではなく、どういう病気で、1人1人症状や悩みが違うことを知ってもらうことが大事だ。（家族）

1人1人をしっかりと見て、1人の仲間、1人の友人として、同じような作業、活動をしてほしい。（本人）

ケアマネジャーとして働く中で、認知症のある方はだんだん増えている印象。できない動作はあるが生活全体が出来ないわけではない場合、その人が自宅で生活を続けられる方法を考えることも大事だと実感している。（ケアマネジャー）

コロナ禍で活躍の場を無くし、家に居る事で認知症を発症し進行した方は多い。地域で活躍の場がある、社会参加の場があることは非常に大事である。（包括）

最初から出来ない決め付けず、できるだけ本人1人でできる事はさせてあげてほしい。また、先回りして心配し過ぎる言葉や行動をとられると、受ける側としては心配になり不安が増すので、そこはそっとしておいてあげてほしい。（本人）

専門職の介入だけでは解決しない部分も非常に多く、地域、隣近所で、正しい理解や認識を持って対応していかないと難しいと感じる。（包括）

同じ悩みや境遇を分かち合う場があるのは大事だと思う。集える場はデイサービス等を利用する前の段階から作ることができたら良い。（介護サービス事業所）

地域資源や色々な関係性の目に見えない資本（ソーシャルキャピタル）が繋がり、積み上がると地域の健康寿命が延び、良い事が起きてくると研究で言われている。認知症のある方と一緒に過ごしやすい所を作っていくことが、ソーシャルキャピタルを上げ、最終的には全体が良くなっていく。皆さんの後ろや横に繋がっている人の声を条例に繋げると良い。（学識経験者）

検討委員会②

大切にしたいキーワード

主なキーワード	類似のキーワード
認知症に関する正しい知識	/意識改革/認知症は他人事ではなく身近なこと/幼児教育から始める認知症への正しい理解を発信し続ける
安心・思いやり・寛容・希望	/WAO（忘れても大丈夫、安心と思いやりのまち 泉南）/伴走、寄り添い
全ての世代、市民一人ひとり、みんな	/一緒にサポート、支える、共に支えあう
自分らしく生活する	/個別性（その人らしさを理解する）/否定しない/自己決定支援、自分で選ぶ、自分で判断して動いていく/当事者の目線
家族へのサポート	/宿泊サービスの充実/安心して預けられる場所/健康診断等で早期発見のための診断できるしくみ/近所の方へ家族からの積極的な告知
気軽に相談できる	/相談できること/必要な資源の情報提供/診断後制度等を説明してもらえる所/物忘れ外来等が気軽に受けられる/早期診療への体制づくり
安心して働ける仕組みづくり	/認知症でも働ける場所の確保/本人が働ける仕組みづくり
専門職のスキルアップ	コーディネート/介護施設の対応力の向上/関係機関との連携/施設と病院との連携強化
高齢者の孤立を防ぐために地域や自治会で守る仕組みを作る/	/つながり続ける/気かけあうコミュニケーション/心ある声かけ/徘徊を散歩と思える街/介護保険外サービスの充実
出会い、学び合い/社会参加/活躍	/役割/交流の場/認知症のある人が能力を発揮できる場所/元気に働ける高齢者の活躍できる場所/刺激のある生活で進行を遅らせる

オープンにしやすい地域づくり、言いやすい雰囲気づくり、地域社会づくりが大事である。（包括）

緊急ショート予約について、直近で対応できる支援を行政でも検討して頂くなど声を反映させることができればと思う。（ケアマネジャー）

年代関係なく集える場所や話ができる場所があればつながりを持てるのではないかな。（子ども政策課）

病気や症状だけを伝えると「なりたくない」「症状が出て怖い」「自分はまだなっていないから別の話」等、自分事として考えるのを先送りして備えが遅れる現状にある。「認知症の理解」だけでなく、「認知症の人の理解を深めること」を大事にして貰えるといい（学識経験者）

当事者の意見を生かしつつ、わかりやすい表現でまとめ上げてほしい（病院関係者）

検討委員会③

本人、家族だけでなく、関わる全ての方が理解し、協力してもらえるように広げていくことが大事だ（本人）

「認知症の人」の表現は多用せず、他の言い方を。（家族）

現場において、本人の判断能力が著しく低下し、本人の決断が不利益となる場合には本人の意向に沿わない支援をせざるを得ないことがある。本人の立場に立つ支援者が糾弾を受けないよう、本人の利益を優先するような支援を行うなどの文言を入れてもらいたい。（包括）

家族の意向を重視する必要がある場面もあるので、その部分も入れていく可能性も考えると良い。（病院関係者）

認知症の人への理解より、「人の理解」を大事にすると良いのではないか。（施設関係者）

本人と家族にとっては、働けなくなると本当に大変なことは身をもって感じているが、事業者の役割が重くなりすぎないように。役割として大事だとは思いますが、条例を盾にされた時に事業者はどうするのか。（家族）

望ましいことでも、負担になりすぎない事が大切だ。事業者が実施しやすい環境づくりや配慮が広がるような表現を探っていく必要がある。（学識経験者）

子どもたちにも条例を知ってもらったり、理解してもらったりできる表現にしてはどうか。小学生が読んで分かりやすい言葉遣いなども必要と思う。（病院関係者）

認知症サポーター養成講座で子どもたちも学んでいる、「忘れても大丈夫、あんしんと思いやりのまちせんなん」という言葉が入っている方が、大人になってからも認識できるのではないか。（介護サービス事業所）

声が条例に反映されていることが実感として持てると良い。（学識経験者）

本人の声①

①あなたがこれからやってみたいこと（希望）はなんですか？

そやなあ...生まれ育った所に
戻りたいかなあ。

希望はいっぱいあるけど思い出せない。
みんなと仲良くしたい。

昔よく行った京都のお寺に行きたい。
最後にもう一度あの満開のつつじが
見たい。

煮物を作ったりしたい。
私は、どっさり炊いとくねん！

何もやりたいことはない。
その日その日を大切に生きていくのがいい。

夫婦二人、一緒に元気で暮らしていきたい

今のままだいい。何もない。

どこかへ行きたいとかはないかな。
息子に会いたいかな。

私はお花が好きやから花見がしたい。

コンサートや芝居などを見に行きたい。
皆一緒になってワイワイと楽しみたい

できることならまたゴルフをやりたいな。
病気になってからできなくなってしまったからな。

おいしいものをもっと食べたい。
食べに連れて行ってほしい

娘に心配かけないように
このまま生活したい。

忘れることが増えて、気持ちが落ち込むこともあるけれど、
「大丈夫」とか「皆一緒だよ」と声を掛けてくれる周りの人の存在が
有難い。これからもこの環境で平凡に暮らしていけたら幸せ。

本人の声②

②あなたが周囲の人に望むことはなんですか？

とりあえず自分でできることやっとく。
やれやんことは手伝ってほしい

認知症でも買い物できるところ
が近くに欲しい

よくわからないことがあるから教えてね。
初めての場所でどうしていいかわからないの。
私を助けてね。

何もわからないから教えてなあ

その時々で分からないことがあれば優しく
声をかけて欲しい

自分の感情を伝えるところがない。自分の子供
に伝えるとケンカになる。

何もかもわからないわけではないので、子ども
も扱いしないでほしい

急かさないで、
無理強いしないで、
ゆっくりした時間が欲しい

娯楽がない。みんなで寄って
話出来るところがない。

車いすで入れる店を増やして欲しい。

「お金のこと、薬のこと」
息子がすべて管理しているが、
自分では解らないので不安。

道を平らにしてほしい。段差があり危ない。

コミュニティバスの本数を増やしてほしい

家族の声①

①今から必要な支援は何ですか？

母の認知症が進行していて、心配しています。
母にとって、良いと思う支援をしてもらいたいです

金銭管理・日常生活全般・身体介護
(下の世話と寝たきりでもきれいにしてほしい)
買い物支援 店までの送迎支援 (自分の目で見えて買い物が出来る)

ひとりでさみしい思いをさせたくない

できる限り住み慣れた地域で生活させてあげたい

認知症という病気を地域の人に知ってもらいたい。

母には、庭の緑を眺めたり、手紙を見たり。
季節の花を楽しんで自由に過ごしてほしい。高齢なので、
できないことが多いですが、無理をせず元気に過ごしてほしい。

家族の声①

②今まで様々な専門職やボランティアの関りを受けてみて感じることや、診断当時に不安だったことは何ですか？

コロナ禍で認知症の家族を介護中、
自宅待機が続き誰にも相談できず。
コロナ禍でも相談できる場所・人が必要。

認知症は一人一人全く違う。
専門職の人など同じように言う。
本当に理解しているの？

診断直後は病状、進行状況、お金、仕事、
今後の生活、すべてが不安だった。

認知症に対する知識や対応など
について、色々と教えてもらう
機会があると助かります。

私に何かあった時に介護はどうなるの？
もしもの手続きとかあればと思う。

「やさしく接しないといけない。強く言い聞
かせても無駄」と解っていても同じことを繰
り返されるとつい苛立ってしまう。

以前、認知症の母のことで、泉南市の介護保険係に主人と2人で相談に行った
が、親身に対応してもらえずがっかりした。
相談者には思いやりのある親切な対応を求む。

当たり前の言葉など、よけいに不安や不愉快な気持ちになってしまう。その
人に合った、言葉や手続き、理解してもらう気持ちをすべての人が持っても
らえればと思う。

市民の声①

①認知症になってもならなくても、共に支え合うために必要なことは何ですか？

認知症のことを正しく知りたい

まず理解が必要だ

世代を超えて交流しながら
顔見知りになること

コロナ禍で近所づきあいが少なくなった。
昔のように井戸端会議ができる場が
あってほしい

助け合う心（何か少しでも手助けできれば）それを伝える場

認知症になっても安心して集まれる場所があればいい

気軽に誰かに相談できる場所がほしい

声掛け（挨拶）

男性が気軽に外へ出ていく機会がふえてほしい

散歩で安心して歩けるよう
道を平らにしてほしい

車やバイクの免許を返納すると、たちまち買い物、病院へ行けなくなってしまう

一人暮らしでも
より長く過ごせるような体制に

市民の声②

②あなたができること（やってみたいこと）は何ですか？

困っている人がいたら声かけしたい

近所の人の事を気にかける。
話を聞いてあげる

挨拶から始めて話をするきっかけを作る

夫が認知症になったら、
なるべく否定しないようにしたい

本人の好きなことを知って、
一緒に楽しみたい

対応はいつも笑顔を心掛ける

寄り添う

認知症カフェへの参加

買い物の手伝い、ゴミ出しなど
ちょっとしたことの助けをする

複数で体操やサロンに声かけをしていく

こどもたちとの交流

近所に認知症の方がおられるのですが、
たまにはお茶をしたり
外回りの掃除をお手伝いしたい

出来るだけ外に連れ出して、
外の景色や空気を感じてもらう

散歩の手伝い、一緒に歩く

事業者の声(介護事業者)①

①大切にしているケアとは？

【対象】市内の介護事業所(グループホーム、特養、小規模多機能型居宅介護、通所介護、居宅介護支援事業所)の管理者、介護職員

利用者さんに合わせた声掛け、気持ちを引き出す等。
残っている力やできることはなるべくしていただく

状態の変化に気づく

その時々状況に見合った言葉かけ、
視線を合わせる

その時々利用者様の心身の状態を
観察して不安を和らげることに
努めている

当事者であるご本人の真の想いを探し、
行動や言動を理解したい

利用者様が安心して過ごして
もらえるような空間作り

尊厳を守ったケア、その人らしさ
(1人1人違うので)を大切に

笑顔で接すること

利用者様の思いを否定しないように関わること

レクリエーションで楽しく、
笑顔の時間を作ってあげたい

相手のペースを守り、
思いやりを持って対応すること

ここに居ても大丈夫だと思ってもらうこと

理解しやすい言葉遣い

関わりを持って接し笑顔が見られたときは
この仕事をやっていて良かったと感じる

ご自分の思いを言葉にすることが難しい方には、
思いを察知できる様しっかりとコミュニケーションをとり、
少しの変化にも気付けること

事業者の声(介護事業者) ②

②認知症のある人が安心して暮らすためには何が必要と思いますか？

家族や地域の方等の認知症に対する理解

リラックスできる時間や、プライドが傷つかないような接し方をすることが必要

古い認知症観をなくす。認知症への社会の理解、その人らしくいれる場所、コミュニティーがあったらいい

本人を尊重すること。

地域での見守りや声掛け、助け合い

役割を持って生活できること。
(人の役に立っているという自信)

日常の衣食住はもちろん、認知症に理解ある方々の見守り体制を整えることが必要と思います。

地域資源とのつながり

地域社会の一員であることを
感じてもらう支援

周りが温かく見守れる、
不安な気持ちにさせない環境

職員の認知症という病気に対する知識

楽しい雰囲気づくりや笑顔

早期発見・早期診断

誰かに話せる・相談できる安心感
をもってもらうこと

家族の方が介護できなくなった時の受け入れ先

周りの人の正しい理解、優しい声かけ、
役割、生きがい

認知症の方に対し、支援する人が少ないと思う。
体調面、食事や栄養、いろんな場面でお手伝いできるサービスがあればいい

認知症だからと何でも代わりに行うのではなく、その人がやりたい事を理解し、一緒に手伝いながらやりたい事を達成できる環境を作る為にも介護する側の知識や経験が必要となってくると思います。 23

事業者の声(医療機関)①

①大切にしているケアとは？

【対象】市内の医療機関の職員(医師、看護師、理学療法士、ケアマネ、ソーシャルワーカー、管理栄養士、介護福祉士、薬剤師、事務職等)

患者さんの声をよく聞き考え方や
日常を理解する

患者の心に寄り添い思いやりをもって接する

その人の今までの生き方を尊重し
大切にすること

支援対象者の持つ強み・力・良いところ・
努力などに着目する視点

利用者様の気持ちに寄り添い、
個々にあったサービスを提供。

コミュニケーションをとる際は、
ゆっくりと相手が理解しやすい言葉
で話すことを心掛けています。

相手の話を聞く、否定しない

患者さんの話を丁寧に聞き常に笑顔で
接する

通常の様子を家族と共有し連絡を
取り合える関係を持つ

本人家族が不利益を被らないような支援の展開

御本人が理解できず、不安にならない様に、
言葉だけでなくメモをお渡しして病院に
来られるようにしている

患者の立場や苦痛をやわらげる存在に
なれたらと考えている

入院生活の中で少しでも楽しく
暮らせるようにすること

認知症状の早期発見に努め関係者と
情報共有しサポートしていく

患者様が安心して入院生活を送れるよう
スタッフと連携を取りながら仕事を行っています。
患者様が笑顔になれることを考えて
仕事をしています。

事業者の声(医療機関)②

②認知症のある人が安心して暮らすためには何が必要と思いますか？

認知症に対する理解を深め地域全体で
本人、家族を見守り支えられるよう
ネットをつくっていく

正しい知識のもと個人を尊重し、
寄り添うことが必要

たくさんの方々とのかかわり連携が必要

認知症に対する周りの理解

見守り・理解ある環境

年齢に関わらず集まって会話できる場所

地域全体で見守っていくこと

その人の家族だけでなく、
地域で支えていくことが必要

飲み忘れをなくすために
家族やヘルパーさんなどの見守り

一人一人の人生について知り考えるこ
と。
患者様だけでなくご家族もフォローする
ことが大切と考えています。

認知症に対する周囲の理解・思いやり

できる限り今まで通りの生活習慣が
維持できるような援助

ご近所や地域の助け合い

アウトリーチによる現状把握

認知症に対しての知識を深めること

施設に入らなくても定期的に巡回
してくれるサービスの充実

在宅訪問薬剤師等、地域に根差した薬剤師の活躍

非医療職や住民、警察官の認知症への理解を深める

小中高の道德の授業で映像を観ながら学ぶ
子供の意見も聞く

認知症の方が外出時に迷子になったり困ってい
る時には声をかけ、ご家族や相談員に連絡を取
れるように身につけるカードなどを発行するこ
とが必要

①どんな泉南市だったらずっと暮らしてみたいですか？

- ずっと安心できる泉南市
- どんな人にでもやさしくしてくれる人でいっぱい
- 一人一人の個性等を尊重できる町
- みんなが仲良くくらしている市
- みんなが笑顔で安心安全に暮らすことができる泉南市に暮らしてみたい
- どんな人でも便利に暮らせる泉南市
- 市民の声を聞く市
- 助け合える泉南市
- 誰にでも人に優しく接してくれる泉南市

②ジュニアサポーターとして私にできることは何か？

- 一人一人理解して接してあげる
- お年寄りを助ける
- もし家族がなってもやさしい声をかけてあげようと思った
- 困っている人がいたら助けられるようにする
- 認知症の人に優しく接する
- 他の人にも今日学んだことを教える
- 寄り添ってあげる。言動、行動であらわす
- 近所の高齢者の方と交流をもつ
- もっと認知症とはなにかを広めたい
- やさしく声をかける
- 差別や偏見をなくしていきたい
- 人助け

子どもの声(小学生)

認知症サポーター養成講座を受けて、思ったこと、私にできることはなんですか？

認知症はほいく園で聞いた事があるけど小学生になって認知症はこんなに大へんなんだ、こんなにもかなしい気持ちになるなんて知らなかった。自分だったらきつく言われたら傷つくと思う。認知症になったおばあちゃんおじいちゃんがいたらやさしく、きつく言わず、おばあちゃんが忘れないように工夫する。認知症で車いすの人がいたら「大じょうぶですか？どこ行くの？知っているので教えますよ。押しますよ」と言って押してあげたり教えてあげたりすると「いいよ」とほいく園で聞いた。道に迷った人、認知症の人がいたら道を教えてあげる。

認知症の人がいたらやさしくしてあげる。わすれなくなくてもわすれてしまうことをきいてわざとじゃないからおこるのはだめだと思った。ぼくもおじいちゃんとおばあちゃんを大切にしようと思いました。

認知症は脳の病気で何もできないということじゃないっていうことがわかってうれしかった。もし、認知症の人がいたら「困っているんですか」と前に来て聞いて声かけをする。後ろだとびっくりしておどろかせてしまうから、前にきて聞いてあげる。何回いっても「何て何て」と聞かれても少し「何回もいってるよ」と思う気持ちもあるけど、やさしく何回も言ってあげます。

認知症という病気をはじめてしった。帰る途中で、困っている人がおったら助ける。おじいちゃん、おばあちゃんにやさしくして、おじいちゃんとかがいっしょにかいもの行こ、と言ったらいっしょにかいものを付き合う。

認知症サポーター養成講座を受けて、思ったこと、私にできることはなんですか？

- 認知症だからといって差別しない事が大切だと思う。
 - 「思いやり」を意識して行動にうつすことが大切だと思う。
 - 優しい言葉を使うように心がける。
 - 認知症の人がいたら、やさしく接する。
 - 認知症になってもならなくても助け合うことが大事。
 - 認知症の人が困っていたら、助けられるように自分から進んで行動すること。
 - 認知症の人たちが「自分たちとちがう」と差別するのではなく、同じように接することをして欲しい。
 - わすれていたりしていたらやさしくおしえる。
 - 認知症などで、道でこまっていたら、いっしょに歩いてあげるなど助けたい。
 - なんどもおなじ話をしても、聞いてあげる。
 - 認知症の人が寂しくならないように話しかける
 - 近所の人たちと話をする時をつくる。
 - 困っている人がいたら助けてあげる。
-
- エレベーターを多くして車いすとかが入りやすいようにする
 - 夜が暗いから電気を増やして明るくする
 - もっと老人や不安な人の相談を聞く場所を作る
 - 細い道などをもう少し広くして車いすの方でも通りやすくなるようにする。
 - おじいちゃん、おばあちゃんがこけやんように道を平らにして欲しい。

たくさんの方からいろいろな「声」をいただきました。

ここにあるのはほんの一部で、時間の都合上、全てをお見せすることはできませんが、ご協力をいただいた皆様、本当にありがとうございました。

皆様の思いを込めた条例になりました。

